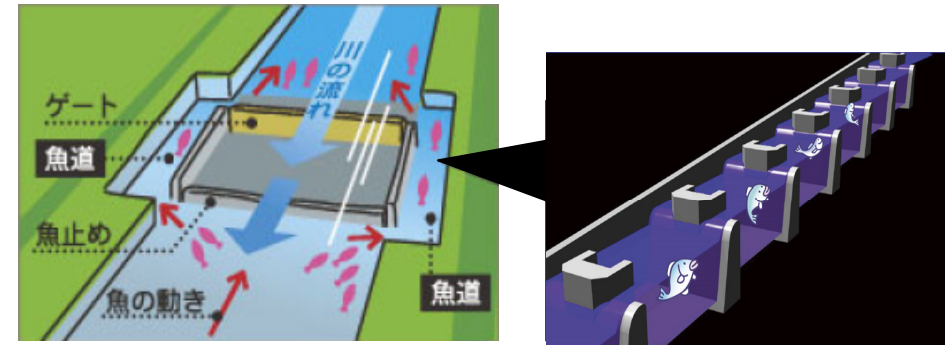


魚にもやさしい施設です。

井田川は、アユやサクラマスなどの生息場でもあるため、堰で上下流の自由な回遊を妨げることがないように、魚の通り道「魚道」を両岸に設置しました。呼び水を流し、魚道がここにあることを魚にわかるようになっています。



特定構造物改築事業とは・・・。

特定構造物改築事業は、「耐用年数を超過し、老朽化が著しい堰や水門などの大規模河川管理施設」、「河積を阻害し治水上支障となっている大規模許可工作物」などの大規模な改築が必要となった場合に機能回復を図るため、機動的・集中的に投資を行い、改築を行うことを目的とした事業です。



国・県・市の3者協力事業

大坪用水堰改築事業の周辺部では、富山市の「まちづくり交付金」による街路事業、富山県による県道の改良事業が行われており、国・富山県・富山市の3者が協力して事業を進めています。



国土交通省北陸地方整備局
富山河川国道事務所
〒930-8537富山市奥田新町2番1号
Tel076-443-4701 Fax076-443-4703
<http://www.hrr.mlit.go.jp/toyama/>

特定構造物改築事業

神通川水系井田川

大坪用水堰



国土交通省 北陸地方整備局
富山河川国道事務所

特定構造物改築事業

大坪用水堰の可動化により、浸水被害を低減

事業の概要

井田川は、「越中おわら 風の盆」で有名な富山市八尾町の中心を流れ、その下流域に扇状地を形成し富山市五福で神通川に合流し、富山湾に注ぐ県内最大の支川です。大坪用水堰は、昭和 41 年に設置された農業用水堰（固定堰）で井田川の扇頂部にあたる治水上重要な場所に位置しています。

改築前の大坪用水堰は、堰の敷高が高く越水や破堤などの水害の危険があったため、平成 14 年度から特定構造物改築事業として事業に着手しました。平成 18 年 5 月に新しい可動堰が完成、平成 19 年 3 月に旧堰の撤去が完了し、一連の事業が完成しました。

事業の効果

農業用水の取水に利用されていた「固定堰」は、水をせき上げて農業用水を取水していたため、洪水時にはその流れを妨げ、上流の水位を上げてしまい、川から水が溢れたり堤防を壊して大災害をもたらしかねない状態にありました。

そこで、「固定堰」から「可動堰」に改築したものです。通常時は、ゲートを立てて水位を高くし、農業用水に利用するなど私たちの生活に役立っています。洪水時には、ゲートを倒して川の水位を下げ、川の水を安全に下流へ流します。

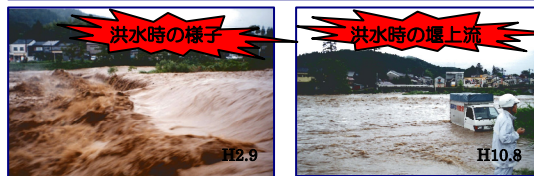
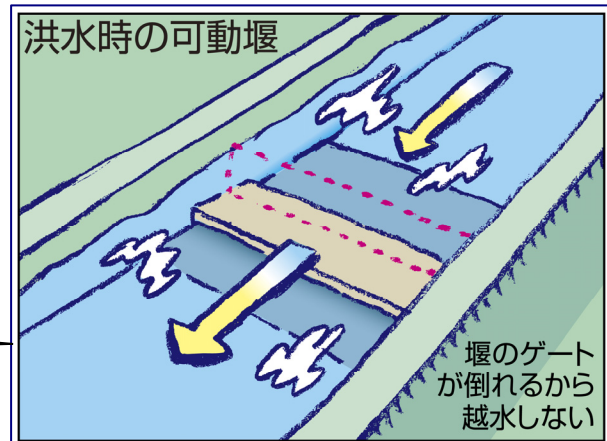
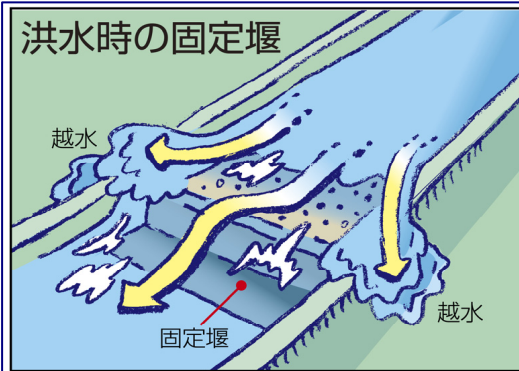
改築前

改築後

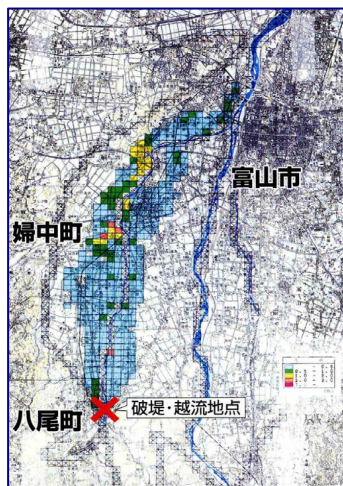


旧堰：コンクリート固定堰
敷高が計画河床高より 1.7m 高く、水害の危険性がありました。

新堰：可動堰
洪水時にはゲートが倒れ、安全に水を下流へ流します。

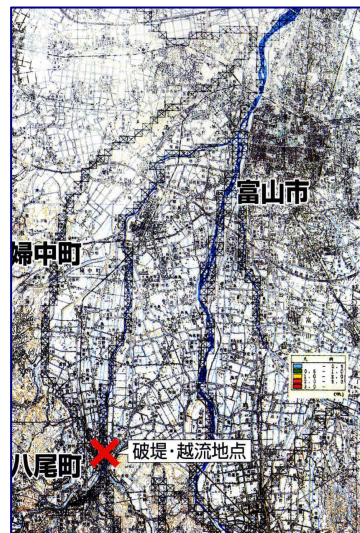


堰のゲートが倒れるから越水しない



想定浸水被害

浸水戸数
約 6,700 戸
浸水面積
約 2,300ha
被害額
約 600 億円



浸水被害ゼロに！

通常時は、水位を高くして、農業用水を取り入れます。



水系名	一級河川神通川水系井田川
堰位置	井田川 14.3km 付近
堰幅	81.00m
形式	鋼製起伏堰
ゲート	24.6m × 2.05m × 3 門
最大取水量	約 12 万 m ³ /日
灌漑面積	206.0 ha
魚道形式	アイスハーバー式魚道